



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

第13回 通常総会報告

5月6日(土)午後2時より、新施設としてオープンした「市民活動支援センター」で通常総会を開きました。

はじめに正会員数56名中、出席正会員37名(うち表決委任者25名)により定足数を満たし、会が成立することを確認しました。その後、事業報告・決算報告、事業計画・予算案、役員選任案が承認され、議事は滞りなく終了しました。議事終了後お茶会を開き、会員の交流の場となりました。承認いただいた本年度事業計画の概要を以下にお知らせします。

■ 事業計画

(1) 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営 予算:2,582,000円

子どもの居場所 月～金曜日:12:30～16:30

「居場所」は日光市からの委託事業です。子ども一人ひとりの意見を尊重するといういままでのスタイルを守りながら、子どもたちが興味を持つ活動を見つけ出し、学びにつなげ、個別学習援助の充実をはかることが今年度の課題です。在籍校との連携も子どもの考えを大事にしながらか進めていきたいと思ひます。日光市からの委託金は昨年同様204万円です。不足分は本会より支出しています。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発 予算:190,000円

学びサポートひろば 毎週金曜日:19:00～21:00

昨年は今市中央コミセンで行なっていました。5月より支援センターを会場としています。その子に応じた学習サポート、ワカモノフェスタなど地域行事の支援を行います。

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援および情報提供 予算:80,000円

ホームページによる学びの支援と活動紹介を行っていま



す。昨年後半から改訂が滞り、ご迷惑をおかけしました。体制を立て直し、情報発信を続けていきます。

(4) 教育や福祉についての相談、情報提供および障がいの理解および啓発に関する企画運営事業 予算:45,000円

居場所での随時相談、会報作成(250部)

(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動 予算:10,000円

引きこもる子を持つ親の会との話し合い、障がいのある人の自立に関する相談。

(6) 自然環境の中での学び、自然環境保全の啓発活動

自然観察、畑作り、川遊び等。環境研究班による放射能・放射線測定・啓発活動 予算:71,000円

(7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営

子育て・親育ち勉強会や茶話会の実施。 予算:120,000円

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

特定指定相談支援事業(さくらそう) 予算:2,910,000円

相談支援事業(栗原理事の市役所出向・日光市委託)

予算:5,900,000円

本年6月30日をもって、役員が任期満了となり、金谷真奈美理事、沼尾忠宏理事の退任が承認されました。また、白井佐智子、手塚郁夫、中島直弥、西尾敬子、村上幸子、吉成啓子、吉成勇一、各理事の重任および山本佳子監事の重任が承認されました。これからいっそうの本会へのご援助、ご協力、そしてご助言をよろしくお願ひ致します。(手塚)

通常総会資料は以下のアドレスから閲覧できます。

www.nantonakuno.net/pdf/gm2017.pdf

目次

第13回通常総会報告	1
環境研究班・放射能測定(2)	2
活動日誌	3
ひきこもり支援連絡会参加	3
こんな本はいかが・38	4



居場所のひとこま

7月中旬、梅雨明け前の蒸し暑い午後、じゃがいもを収穫しました。みんなあせだくになってがんばり、たくさんのじゃがいもを掘り出すことができました。

収穫したたくさんのじゃがいも(上写真)は居場所で保管しています。「つくって食べよう」などで活用したいと思ひます。(N)

3年目の放射能測定(2)

なんとなくのひろば・環境研究班

2011年の原発事故以来、放射線・放射能測定に関心をもち、土壌などの測定を始めた経緯レポートの2回目です。

2014年9月に測定器「ChappyDigital211(略称CD211)」を購入。あれこれ迷ったあげく、ガレージに計画した設置場所を私室(ガレージ上、2階)に置くことにしたところまでが前回のお話でした。

室内への放射能飛散を防ぐために、試料作成はガレージで行い、測定は空間線量がより低い2階で行うのがよさそうだと考えました。測定中の試料は5cm厚の鉛シールド内なので安心ですが、測定を終えて部屋に置けば放射されたガンマ線が部屋中に飛び、近くにいる人は被曝します。数千ベクレル/kgを超える試料は20cm厚コンクリートブロックで作った「簡易仮置き場」に持っていき、焼却灰などはまとめて日光市クリーンセンターへ運ぶ(その後はどうなるか考えると憂鬱になりますが...)ことにしました。

さて、今回購入した放射能測定器は「シンチレータ検出器」と呼ばれるものです。放射能から飛び出したガンマ線が特殊なプラスチックを横切るときに発する微弱な「シンチレーション光」を高感度のデジカメのような装置で数えます。同時に光量を測定し、ガンマ線のエネルギーを推定します。シンチレーションは化学反応の一種なので、温度に影響されます。温度が変化するとガンマ線を捉える効率が変化し、どれだけのエネルギーのガンマ線が何本、特殊プラスチック中を通過したかという見積りに影響します。さまざまな試料を測定するうち、24時間継続して測定できれば、キログラムあたり数十ベクレルの放射能も測定できそうということがわかり、長時間測定を可能とする温度制御が必要となりました。

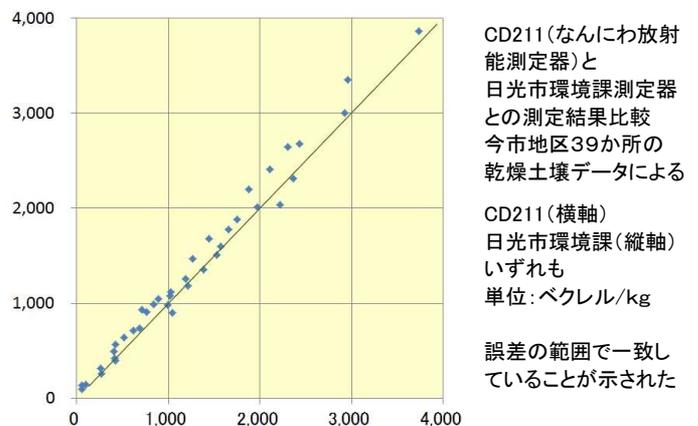
寒くなってきて、部屋全体を適当な温度に保つことはますます難しくなり、オプションの恒温槽(ペルチェ素子を使った小型の冷蔵庫)を「FUJJapan」より購入することにしました。コントローラ・送料込みで3万5千円也。業者さんの改造によって、内部の棚などを取り払った冷蔵庫が届いたのが12月半ば。マニュアルも付いていないので、どうやってつなげばよいかわかりません。数回の電話問い合わせの結果、コントローラに付いたふたつの電源プラグ「ヒーター」と「クーラー」にそれぞれ

電気あんか(20ワットくらい)と冷蔵庫のコンセントをつなげばOKであることがわかりました。あんかは庫内に置き、温度設定は16℃としました。およそ±1度の範囲で制御されます。熱帯魚水槽温度管理装置の流用なのです。(付記:2015年夏に、この冷蔵庫は故障し、冷却機能がダメになりました。2万円で購入直し、その後はうまく動いています)

10月に入り、日光市役所環境課に測定を依頼した土壌試料の測定を始めました。ひとつの試料あたり2~4時間程度かけると放射性セシウムの信号がはっきり現れます。高性能の「ゲルマニウム検出器」を持つ研究機関と連携ができ、精度を確認しながら測定を進めました。下のグラフはCD211による土壌測定結果と環境課測定とを比較したものです。誤差の範囲で一致していることを確認しました。将来に残すことのできる土壌放射能データをこのCD211測定器で得ることができるといふ確信を得たのは2015年に入ってからでした。

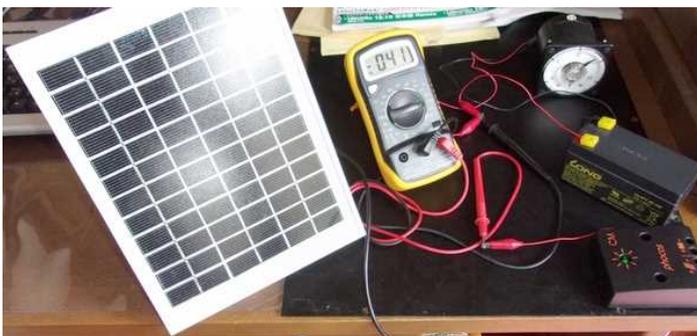
このシステムによる測定がようやく軌道に乗り始めた2014年の終わりごろ、日光市栗原で周辺の木材を燃料とする「木質バイオマス発電所建設」の話が持ち上がりました。不安を訴える地元住民向けに「放射能について基礎的な話を」と日光市役所からの要請がありました。講話の中で、燃料となる木材に含まれる放射能、焼却後に残る灰中の放射能、そして粉塵などのかたちで周辺に飛散する放射能を測定することの重要性を強調しました。数10ベクレル/kgの木材チップの放射能まで測定可能なCD211は地域の安全を守る大きな力になっているのです。(次回に続く) (環境研究班 三上・手塚)

前回の訂正:右欄8行目「2013年8月から9月にかけて」は「2014年…」の間違いです。訂正をお願いします。



マイクロ太陽光発電所@子どもの居場所

最大出力4ワットの太陽光パネル(左)、充電コントローラ(右下)そして鉛バッテリー(右中央)の組み合わせで、小さな発電所ができました。充電した電気で超小型コンピュータ「ラズベリーパイ」の冷却ファンを回しています。



子育て・親育ちの茶話会

場所: 子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時: 毎月第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費: 300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)

☆ 活動日誌

- 4月17日(月) 通信「なんとなくのひろば・第47号」発行
 4月28日(金) つくって食べよう(サンドイッチ)
 4月23日(日) ベリー会:月例会
 5月6日(土) 理事会(第77回)・通常総会(第14回)
 5月8日(月) 茶話会(第75回)
 5月16日(火) つくって食べよう(焼うどん)
 5月23日(火) 児童・生徒指導担当者等連絡会議(中央公民館中ホール)
 5月27日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
 5月27日(土) 川むしたんけん隊(小百)雨のため中止
 5月28日(日) ベリー会:学習会
 6月10日(土) 放射能・放射線ワークショップ(第4回)(アースディ日光@市縁ひろば)
 6月12日(月) 茶話会(第76回)
 6月18日(日) ベリー会:学習会
 6月23日(金) つくって食べよう(クレープ)
 6月24日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
 7月1日(土) 理事会(第78回)手塚理事長再任
 7月10日(月) 茶話会(第77回)
 7月10日(月) 法務局届け出
 7月23日(日) ベリー会:対話交流会
 7月29日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
 さくらそう関連の勉強会など

平成29年度相談支援専門員連絡会(毎月第4水曜日 午後2時より)に参加しています。

第4回 汗馬の労(かんぱのろう)(コミュニティカフェおおぞら)

講話:特別支援学校での就労支援 今市特別支援学校 教諭 金子優子さん

講話:フィールドの支援 県西圏域障害者就業・生活支援センター/主任就業支援ワーカー 福島和開さん

アースディイベント・講演会の様子



環境測定班参加



夏休み・火、金曜日は開いています！

12時30分～16時30分

(8月11日(山の日)、15日(火)はお休みします)

見学自由です。気軽にご連絡ください。

■ ひきこもり支援連絡会に参加

7月13日(木)、日光市役所で「日光市ひきこもり支援連絡会(本年度/第1回)」が開かれました。「なんとなくのひろば」は昨年同様、民間支援団体という立場で参加いたしました。

前回は紹介したように、この会は「ひきこもりの長期化等の問題に対し、支援の充実および戸別の事例に対して適切な支援を行うことができるよう、医療・保健・福祉・教育・労働等の関係機関から」構成され、恒常的かつ効果的に連携し、総合的なひきこもり支援を行うこと目的としています。

はじめに「かがやき」の吉成啓子センター長より、これまでの昨年度の事業実績報告がありました。昨年7月に開所してから9か月間の相談者数が30人、同時期の相談支援利用回数が151回など、スタッフの努力と支援の必要性を実感させる数字が報告されました。

今年度事業計画の説明に続き、事例報告が行われ、参加者の意見交換が行われました。問題をかかえる本人だけではなく、それをとりまく家族、公共機関、医療機関など、さまざまな側面からの分析と援助が必要なることをあらためて感じました。

「日光市ひきこもり相談センター かがやき」の連絡先は以下のとおりです。電話やメールによる相談、家族と相談した上での訪問相談、本人の来所相談(予約必要)など、さまざまなパターンの面談に対応しています。本会を通じての紹介も可能です。気軽にご連絡ください。(手塚)

場所:〒321-1261 日光市今市741

相談受付:毎週火～土曜日 午前9時～午後5時

電話番号:0288-25-5508

メールアドレス:soudan@nikko-city.info

運営:特定非営利活動法人 おおきな木

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net
ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？

その38: 新井白石「折りたく柴の記」

訳: 桑原武夫 (中公クラシックス・中央公論新社)

新井白石は17世紀おわりから18世紀はじめにかけて、江戸幕府の実力者として活躍した朱子学者です。「宣教師のDNA」篠田謙一(「図書」(第816号), 2-7, 2017年2月 岩波書店)という小論文がきっかけで興味を持ちました。東京都文京区のマンション建築現場で人骨が発見され、DNAと歴史資料調査により、その場所がイタリア人の「最後の潜行宣教師」ジョバンニ・バチスタ・シドッチの墓と同定されたという内容です。論文にはDNA鑑定の経緯が詳しく述べられています。埋葬後300年の遺骨はDNAの経年変化を考慮すると解説可能の限界点だということ、そしてDNA分析が歴史研究の道具として使えるようになった時期という絶妙のタイミングで、宣教師シドッチの骨が出現したのは「運命的なものを感じざるをえない」という著者の感慨で締めくくられています。これらのDNA解析をめぐるエピソードにも興味をひかれましたが、シドッチを尋問し、「人格と学識に感銘を受け」という人物、新井白石が気になりはじめました。

当時の幕府は「キリシタンによる布教は日本侵略の企みである」と考え、強力な禁教政策を取っていました。しかし、シドッチとの面談の後、白石は謀略論を否定し、蘭学を学ぶことの必要性を幕府上層部に説きます。新井白石について、江戸幕府の政策を支えていた「学者官僚」という単純なイメージしかなかったのが、このような柔軟な思考の持ち主だったのかと自分の無知を知らされました。図書館で「日本思想体系・新井白石」(岩波書店)を探し、その巻末にあった「知的活動の多方面さは空海に匹敵する」と評した加藤周一の解説を読み、ますます興味をひかれました。シドッチへの尋問をもとに書いたという『西洋紀聞』をいきなり読み始めるのも無謀と思い、まず白石が自伝として残したこの本を手にとってみることにしたのです。

と、ここまで書いたところあまり余白がなくなりました。自伝は父母の話に始まり、江戸幕府に持ち掛けられるさまざまな難問、政治中枢内の葛藤、そして300年前の話かと疑いたくなるような幕府予算の無駄遣いと事業に関わる役人たちへの賄賂の横行への怒りが年を追って描かれています。地方の藩で起きた紛争について対応した記述も多く、当時の為政者がどう考えたか、判断を求められた白石が民衆の苦しみをくみとり、どう決断したかなどの過程を追うことができ、興味深いものがあります。桑原武夫の端正な現代語訳は読みやすく、幕府政治の現実に向き合い、改革を進めた白石の精悍な姿が見えるようです。読書の秋に、おすすめの一冊。(手塚)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員 : 56
賛助会員 : 19
団体会員 : 4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく願っています。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。



なんとなくのへや

イギリスの作家、ジョージ・オーウェルが1949年に書いた小説「1984年」が今年に入って、突然売れ始めたそうです。近頃、自分たちに不都合なデータに対して政治権力が「もうひとつの事実がある」と言い張る手法が小説中の「ビッグ・ブラザー」による専制支配を連想させるのでしょうか。「ネットやマスコミで繰り返し「嘘」を拡散すればそれが真実になる」という姿勢は批判されなければなりません■嘘やいつわりで思い出すのは、ファインマンという物理学者。1965年に(朝永振一郎とともに)「量子電磁力学」でノーベル賞を受賞しました。機知に富んだ人でたくさんのエピソードを残しています。その中に「科学における嘘」について含蓄ある警句があります。あれこれ説明するより、ファインマンの言葉をそのまま書くのがよいでしょう。以下、引用します■「諸君に第一に気をつけてほしいのは、決して自分で自分を欺かぬということです。己というものは一番だましやすきものですから、くれぐれも気をつけていただきたい。自分さえだまされなければ、他の科学者たちをだまさないことは割にやさしいことです。その後はただ普通に正直にしていればいいのです」(カリフォルニア工科大学1974年卒業式式辞)『ご冗談でしょう、ファインマンさん』(岩波書店)より(T)